虐待予防のために
～ポジティブ・ディシプリン普及事業

NPO 公益活動支援事業（補助金）

■ 団体名：

NPO 法人 GGP ジェンダー・地球市民企画

■ 事業年度：令和 3 年度

団体の概要

1996 年活動開始、2004 年法人化。ジェンダーと地球市民の学びを参加型ワークショップで企画・実践するNPOです。 ワークショップの学びは、「問題を解決する力」「自分の価値観を自覚する力」「自分で選択する力」を養います。また、 市民が 「思いをカタチにしていく」 には、 <個人の学び>に加え、<組織の学び>が重要です。

GGPは「よい会議の進め方」「ファシリテーター養成講座」「コミュニケーションワークショップ」 など、 団体のマネジメントをエンパワメントするワークショップを実践しています。

事業の目的と概要

北九州市の全ての子どもが虐待から守られ、愛される幸せを実感して生きていくことができるよう、養育者が希望するときに、ポジティブ・ディシプリンというプログラムを受講できるしくみをつくりたいと考えています。日本では、まだまだ「しつけのために子どもを叩くことは、やむを得ない」という意識が根強く存在します。北九州市では、議員提案で、2019年 4 月に「北九州子どもを虐待から守る条例」が施行され、また、2020年 4 月には児童虐待防止法が改正、親の体罰禁止が法定化されました。体罰禁止の法定化は世界で 59 番目です。この北九州市でも、「体罰はいけない、では、どうやってしつけをしていけばいいの？」という養育者の問いに応える具体的な取り組みをすすめていきます。

■ ポジティブ・ディシプリンファシリテーターが進行役となり、実践講座を2地域で開催する。ポジティブディシプリン日本事務局トレーナーのフィードバックを受けながら、ファシリテーターとしても習熟する。

■ 事業報告会を開催 北九州市民の虐待予防の意識を高める。

事業費とその主な内容

事業費 1,005,225円 (うち補助金額 500,000円)

事務局活動費、報償費(トレーナー謝金、託児謝金)、旅費・交通費(トレーナー旅費ほか)、消耗品・材料費、委託費(効果測定費ほか)、備品費、役務費(郵送費)

事業の成果

1.小倉南区・戸畑区で「ポジティブ・ディシプリン叩かない、怒鳴らない子育て～罰がダメというなら、どうしつけを教えればいいの?」の講座を開催した。

＊小倉南区:NPO 法人 光楽園 第2おひさま 令和3年(2021年)10月2日～12月18日 (全9回 14:30～16:30)のべ 50 名参加
＊戸畑区:戸畑区役所 令和3年(2021年)10月4日～12月20日(全9回 10:00～12:00)のべ62名参加

参加型形式で、たくさんの意見をだしあいながら、プログラム・ファシリテーターがトレーナーのフィードバックを受けながら、伴走した。0才～18 才までの発達の道すじを共有しながら、具体的な場面についてみんなで考えることができた。(春の小倉北区での開催も含め)3講座の出席率は平均91.6%と高かった。「長期的な視点での関わりを学ぶことができてよかった。
・子どもの立場になって考える機会があって、日常の中でも、子どもの立場になってみることができるようになった。どうしてこんなことをするのかと一旦考えることができるようになったのは、自分の中で大きな成長と思う。
・毎年開催してほしい。親になる前にみんな受講すべきだと思いました。
などの声が寄せられた。

2.3月5日(土)事業報告会
<ポジティブ・ディシプリン普及®>について、み～んなでいっしょに考える事業報告会
参加 31 名 登壇者 7 名
プログラムを理解していただき、普及について、共に考え、虐待予防の意識を高めることができた。「・ポジティブ・ディシプリンがとても今の世の中に必要だと思う。勉強を受けられる環境が身近にあることを知らせることが大事かと。・地域の人に勧めていただいて何の予備知識もなく参加しました。本当に参加できてよかったです。なんとか、たくさんの子育てしている方々に、聴いていただきたいです。」などの声があった。市の各担当課、また、関係団体に沢山のご配慮とサポートをいただいた。今後の普及への連携を育み、ご協力もお願いした。

事業をふりかえって（工夫した点や苦労した点、今後の展開など）

1．出席率は高いが、最初の一歩につながる広報がむずかしい

広報先として、各会場の近隣の小学校へチラシ配布した。メールでも一斉配信。（SNS 配信は控えた。）小学校での配布は、「実際に虐待を受けている子どもにとっては、危険である」として配布を断られたところもあった。９ 回連続講座だからか、コロナ禍だからなのか、なかなか参加につながらず、南区、戸畑区とも定員に達しなかった。（ただし、前述のように、出席率は高かった）

2．地道な普及を重ねていきたい

2019 年に研修会を開催してから、最初はファシリテーター養成に、ハードルを高く感じたが、養成後、プログラム・ファシリテーターは、意欲的で講座開催が現実的になっていった。今後も少しずつスモールステップを重ねることで、市民の認知度をあげていきたい。現在、養育者がしっかりと子育てについて学んだり、思いをわかちあったり、発達について、体系的に学べる機会は多くない。この講座を届けることで、養育者自身もほっとして、子育てに向き合うチカラを育むことができると思う。そんな機会をじっくりとつくっていきたい。

普段着で読む「北九州」2021
（朗読会とワークショップ）

NPO 公益活動支援事業（補助金）

■ 団体名：普段着の朗読の会

■ 事業年度：令和 3 年度

団体の概要

普段着の朗読の会は、日常の隣に朗読の場をつくることを目指すとともに、会員それぞれの「自分の表現」を見つけ出せる場でありたいという願いをこめて平成 27 年 7 月に発足した、朗読のグループです。

朗読を楽しく学ぶとともに、地域に伝わる民話・昔話や火野葦平・伊馬春部・松本清張・林芙美子等、郷土の近現代作家の作品を積極的に学び、語り伝えていくことを一つの柱として活動しています。

事業の目的と概要

北九州市制 60 周年を目前に控えて、旧五市出身の作家の遺した作品群が、声に出して読むに相応しく、耳で聴くに楽しいことを朗読会と朗読ワークショップによって体験し味わってほしいという思いで企画しました。具体的には、みずかみかずよ・伊馬春部（八幡市）、宗左近（戸畑市）、火野葦平（若松市）、林芙美子（門司市）、松本清張（小倉市）、そして現在の北九州の作家たちの作品による連続朗読会（とワークショップ）を各地で実施し、年度末に全体を振り返るという試みでした。

残念ながら、コロナに負ける形で目標は達成できませんでした。

実施できたのは、林芙美子の会だけでした。

事業費とその主な内容

事業費 43,545 円（うち補助金額 21,000 円）

賃金（ｱﾙﾊﾞｲﾄ）、報償費（出演料）、交通費、消耗品・材料費（事務用品、書籍代）、使用料（会場借上料）、役務費（郵送料）

事業の成果

今回の活動による獲得目標は5つありました。

1. 北九州（旧５市）に、忘れてほしくない先人がいたことを知ってほしいこと。
2. 「朗読」によって、他者との交流の時間を持ってほしいこと。
3. その活動を行う仲間が増えていってほしいこと。
4. 北九州の創作活動の現在を「声」で伝えること。
5. コロナ禍のコミュニケーションとしてオンラインを取り入れること。

以上が目標でしたが、コロナに負けてしまったことが残念です。

※　唯一実施できた　林芙美子の会アンケートより（回収 15）

・地元の作家でも知っているわけではないので勉強になった。

・同じ文章を読むのがこんなに楽しいとは思わなかった。

事業をふりかえって（工夫した点や苦労した点、今後の展開など）

肉声を届ける「朗読」という表現であるため、コロナ禍における制約については理解したうえで、感染拡大防止の予防措置を十全に行って実施したいと考えておりました。しかし、残念ながらその意思を貫いて計画通り企画をおこなうことはできませんでした。

新型コロナウィルスの勢いが予想に違い収まらなかっただけでなく、一旦落ち着いたと思う間もなく再び猛威を振るうという波状攻撃の前に、当会の会員だけでなく参加を希望していた方々の多くも心折られる形となり、事業の継続ができませんでした。

結果として、「林芙美子と放浪記の作家」（門司市）１回だけの実施となりました。

環境が整ったところで、再出発しようと思います。

おいしい・たのしい・あたらしい防災！

NPO 公益活動支援事業（補助金）

■ 団体名：NPO 法人 ALL OK

■ 事業年度：令和 3 年度

団体の概要

この法人は、地域住民（主に核家族化に伴う孤立しがちな育児中の親子や社会から孤立した在留外国人、その親子）に対して、国際交流や動物愛護、子育て支援等を主な内容とした事業を通じて、動物と人間、外国人と日本人、女性と男性など様々な壁をなくし命が平等である社会実現に寄与することを目的として活動。

事業の目的と概要

近年、自然災害や新型コロナウイルスの蔓延など命が危険にさらされる出来事が多発しています。しかしながら、実際に我が身に起こらないとなかなか自分ごととして捉えることは困難です。私たちが暮らす北九州は「防災」に対しての意識が低いのが現状です。「大きな災害が起こってからでは遅い」と言う認識はあっても自然災害の少ない北九州ではまだまだ「人ごと」。防災はもしもの時ではなく日頃からの正しい知識、情報、備えです。まずは自分の命を守る「自助」の重要性の啓蒙活動を楽しく、継続的に開催することにより、「防災の街　北九州」として「防災」で繋がる「命」の街づくり活動を行いたいと思います。

■ おいしい→【飲食店】と一緒にイベント開催（おいしい防災食の提供）

→　防災乾物パッククッキング（オンライン開催）

■ たのしい→「防災ダンス」の作成・発表

→　オンラインミーティング（全国の防災士や災害体験者と繋ぐ）

一般のイベントに参加

■ あたらしい→　「防災フェスタ」開催

→　ドックフェスタでの「ペット防災セミナー」の開催

事業費とその主な内容

事業費 835,018 円 （うち補助金額 350,000 円）

賃金（アルバイト代）、報奨金（講師謝金）、旅費交通費、委託費（チラシデザイン）

備品費（オンライン配信機材）、研修費など

事業の成果

■「オンライン配信・ハイブリッド開催」

・コロナの影響を受けずに、活動を開催できるようになった。

・天候や地域に限定されない、外出困難な方や当日参加できない方にも対応できるなど多くの利点を実感できた。

■「ペット防災」

・行政との協力体制（危機管理室・保健福祉課・動物愛護センター・獣医師会）ができた。

・全国のネットワーク組織に参加できた。

・飼い主への適性飼育の啓発活動が明確になった。

事業をふりかえって（工夫した点や苦労した点、今後の展開など）

■ コロナの影響で大幅に予定が変更になって苦戦した。が・・・結果的には変更になったことで次の活動につながったのでよかったが、変更するタイミングなど事前に考慮していなかったことは大きな反省点として今後に活かしていきたい。

（タイムスケジュールは細かく、明確にする。担当者を決めるなど）

■ 広報活動

・チラシの配布先を明確にする。

北九州市の後援事業であれば、市民センターや獣医師会、学校など配布が可能だが、費用対効果を考えると適切な活動内容かどうか検討が必要。

・SNS の活用を重視する。

担当者を決めて、継続的に情報発信していくことが重要だと実感した。

■「ペット防災」

・「おいしい・たのしい・あたらしい防災！」と大きな枠組みで活動した結果、北九州市内でたくさんの「防災活動」をしている方と知り合うことができた。

・「ペット防災」に絞って活動していくことで他団体との連携も取りやすい。活動内容が明確になる。

・事業収入を確保していかなければ、先細りになることがハッキリした。

防災活動を通して、私たちの活動目的である「命の垣根のない社会」に近づく小さな一歩を踏み出せたと思う。